

平成30年度第2回学校業務改善アドバイザー研修会

平成30年12月18日(火) 徳島県立板野支援学校



第2回学校業務改善アドバイザーの研修会が板野支援学校で開催されました。MTKプロジェクトの進捗について、各学部・課から報告があり、その後、意見交換をしながら、今後の方向性について検討しました。

講師 コクヨ株式会社ワークスタイル研究所
主幹研究員 齋藤敦子氏

校舎内の視察



研修会に先立って、9月の第1回研修後から取り組んできたスタンディングテーブルの設置やコミュニケーションルームの整備など、学校の環境改善について、見ていただきました。

書類の共有スペース(ラボ)も整備されていました。



スタンディングテーブル

コミュニケーションルーム



教育の質の向上のためには、業務のスクラップアンドビルドがポイント

取組発表

18の各学部・課の取組の中から、代表による発表が行われました。



中学部

職員のアンケート調査結果をもとに、会議時間の制限やペーパーレス化などできることから取り組んでいる。



教務課

校内ネットワークを活用した効率的な情報伝達に努めている。また、出張や年休の記録など帳簿類の処理のIT化を進めている。



総務課

スタンディングテーブルの設置や倉庫の整理による業務の効率化に努めている。各担当で行っていた駐車場のライン引き業務を一括して担い、業務の効率化を図った。



情報課

何でも意見が言い合える雰囲気づくりに努めている。組織として何がアウトプットできるかが大切である。

指導・助言



■アンケート調査を実施し、その結果を踏まえた取組になっている点はよい。

■共有スペースをもっと整備すると学校全体の働き方が変わってくる。個人に任せるのではなく、見本のようなものを示し、学部単位などで取り組むとよい。

■年度末に取組の振り返りをしてほしい。それを皆で共有し、課題を明確にしていくことが必要。

■時短ハラスメントにならないために

業務量が減っていないのに「早く帰れ」と言うのは、時短ハラスメントにつながる可能性がある。そうならないために、トップダウンによるものと、ボトムアップによるものをうまく組み合わせることが大切。お互いに納得感を感じながら取り組むことが大切。(埼玉県事例より)

■スクラップアンドビルドのポイント

緊急度が低く、重要度が高いものは、見直しをすればやるほど効率化できる。そこで生まれた時間を緊急度が高く、重要度も高い業務に振り分けていくことで、質の向上が図られる。